

モニタリング調査結果

種名 : ヤマエンゴサク

調査者 : NPO法人境川の斜面緑地を守る会

調査地 : 上鶴間

| 調査期間 | 気づいたこと |
|---------------------|--|
| 2018年3月 ~2018年4月 | 針葉樹の交ざる林内では個体数は減ったが、まだ残存している。河川管理用通路沿いでは9m×3mの範囲で安定的に生育を維持している。低木を除伐しササ刈りを行った旧河道沿いでは個体数、開花数が増えている。ジロボウエンゴサクに比べヤマエンゴサクは群生はかなりかたまっている印象がある。 |
| 2019年3月 ~2019年4月 | 針葉樹の交ざる林内ではササ刈りをしたものの、個体数はさらに減った。河川管理用通路沿いでも珍しく開花数が少なく、一つの花茎に咲く花の数も少なかった。しかし旧河道沿いの生育地は勢力を増していて、シラカシを伐採した林内でも個体数・開花数が増えているので、調査区だけでなく林全体での各生育地の動向に注意して観察を続けたい。 |
| 2020年3月 ~2020年4月 | 針葉樹の交ざる林内では個体数が減ったものの40茎ほどを維持している。河川管理用通路沿いでは開花茎数がさらに減って100茎ほどとなった。しかし旧河道沿いの群生は勢力を増して50茎以上となり、勢力を落としていく群生と勢力を増していく群生がある。ササ刈りなどで一気に勢力を増しても10年以上経過すると勢力に衰えが見られ、群生にも寿命があるのだろう |
| 2021年3月 ~2021年4月 | 針葉樹の交ざる林内では88茎と増加した。河川管理用通路沿いでは開花茎数がさらに減少し40茎ほどに。旧河道沿いはさらに勢力を増して83茎となった。群生の栄枯盛衰がさらに明らかとなる。その他に20茎ほどまとまった群生を2カ所で確認している。 |
| 2022年3月 ~2022年4月 | 針葉樹の交ざる林内では減少し30茎(昨年88茎)となった。河川管理用通路沿い の開花数は微増の60茎(昨年40茎)となった。旧河道沿いは大幅に減少し10茎(昨年83茎)であった。開花数が減少した と旧河道沿いは開花時期に共に草に覆われていたことから、生育地管理を行ってみる。 は12月に笹刈りを行った。 |